

人口減少と労働面の課題

慶應義塾大学経済学部

太田聡一

労働面から何が必要か

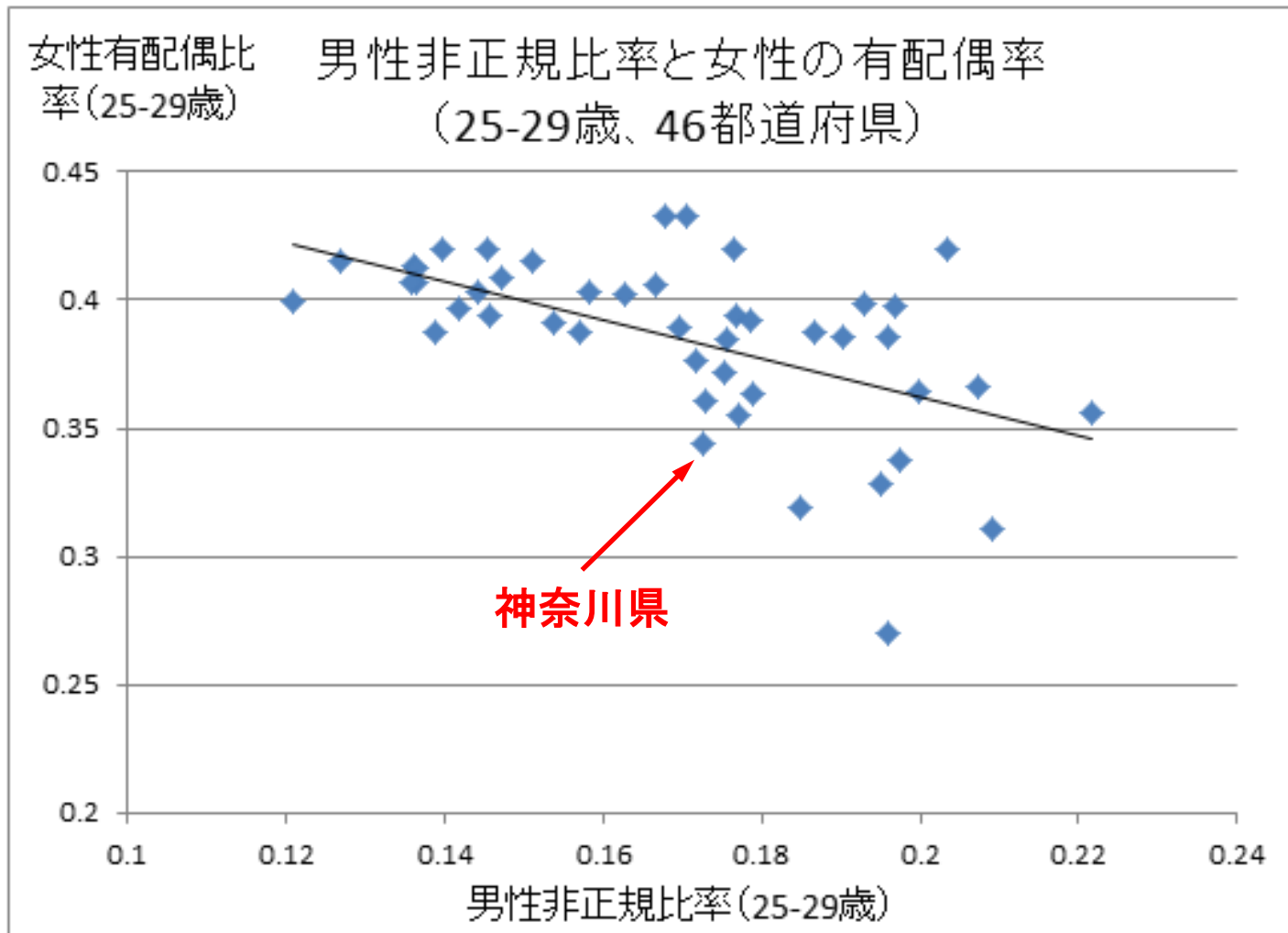
- 若年者の雇用環境の改善
 - 注意点：性差による効果の差異
- 長時間労働の是正
 - 男性の家事参加と性行動
- 両立支援
 - 女性が直面する仕事と育児（家庭）のトレードオフ関係を緩和
 - 高齢者の高度活用

若年者の雇用環境の改善①

日本の既存研究【酒井(2013)による】

- 酒井・樋口(2005): 学卒時に無職や臨時雇用だった者はその後の結婚・出産が遅い
- 水落(2006): **男性**では学卒直後の雇用形態が正規の場合、初婚時期が有意に早まる
- 太田(2007): 若年**男性**の短時間雇用者比率が高まると女性の有配偶率が低下、独身女性の無業率・失業率が高まると女性の有配偶率が上昇
- Hashimoto and Kondo (2012): 学卒時の景気が悪いと、低学歴の女性ではその後子どもをもつ確率が下がるが、高学歴の女性では上昇する

若年者の雇用環境の改善②



(出所)平成22年「国勢調査」(総務省)

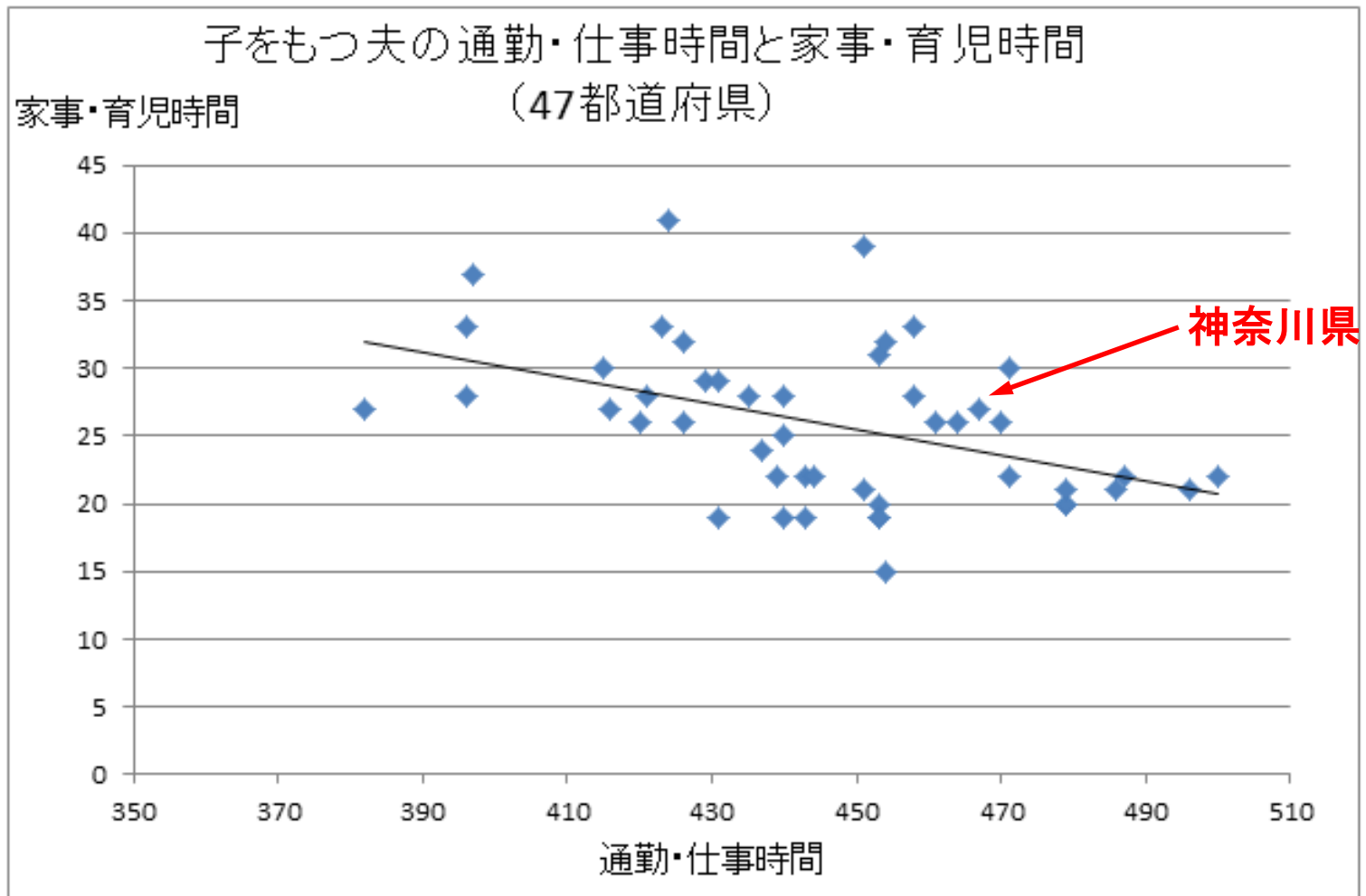
(注)外れ値である沖縄県は除いている。

若年者の雇用環境の改善③

【論点】

- 二極化問題への対処
 - 経済成長と企業による若年採用
 - 世代サイズと今後の若年就業環境
 - 高齢者雇用と若年者雇用の両立策
 - あるべき教育政策
- etc.

長時間労働の是正①



(出所)平成18年「社会生活基本調査」(総務省)
(注)「夫婦と子供の世帯」における夫の週全体の時間

長時間労働の是正②

性行動頻度に関する週労働時間の影響(就業者)

	単身者	既婚者	既婚給与 所得者	既婚給与 所得者 (男性)	既婚給与 所得者 (女性)
週労働時間	(-)	(-)*	(-)**	(-)	(-)*
年齢	(-)***	(-)***	(-)***	(-)***	(-)**
女性	(-)	(-)	(-)		
住居の床面積	(+)**	(+)	(+)	(+)	(-)
一人暮らし	(+)				
子ども1人		(-)	(-)	(-)	(-)
子ども2人		(-)***	(-)***	(-)***	(-)
子ども3人以上		(-)**	(-)	(-)	(+)

(出所) 玄田・川上(2006)

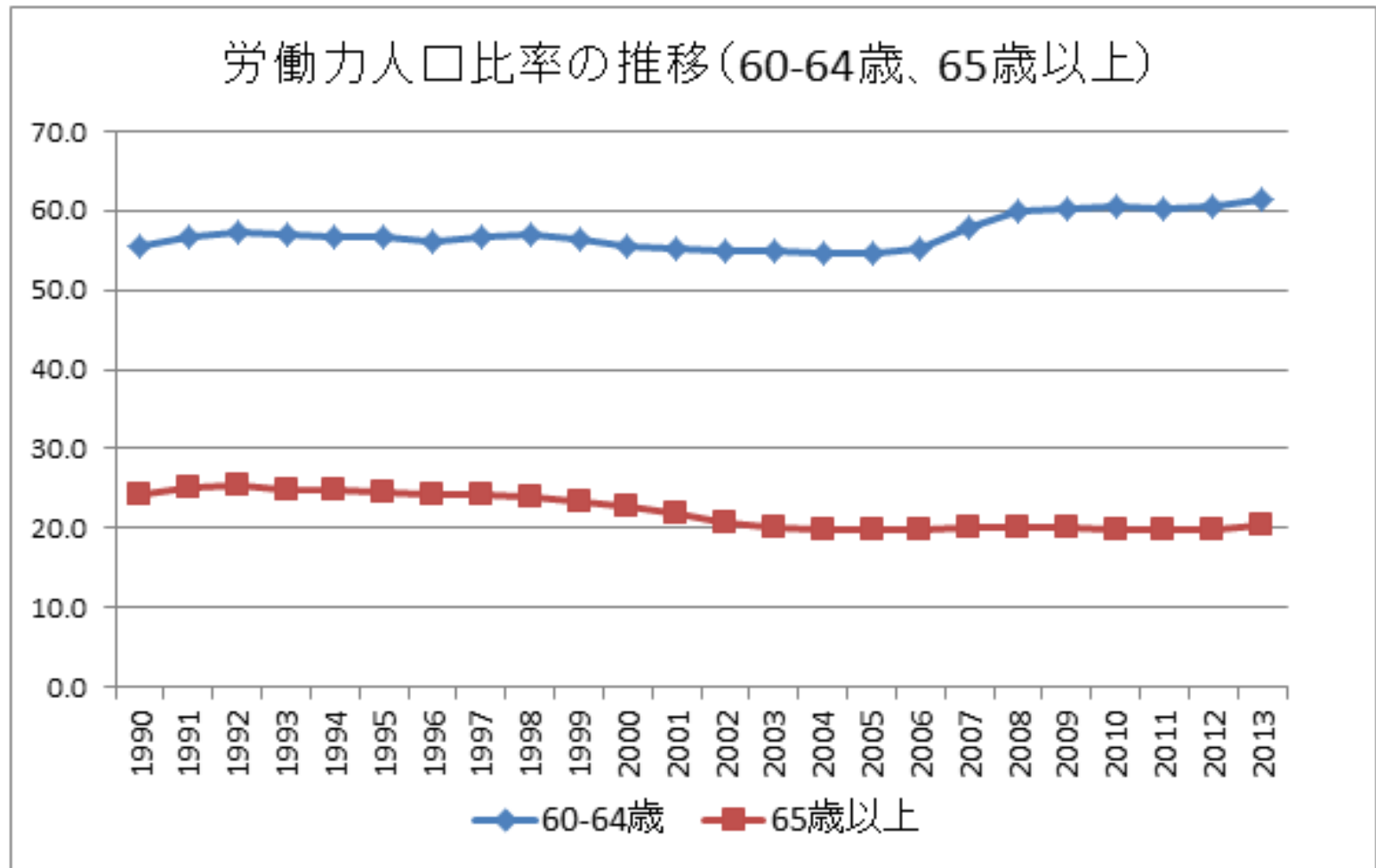
(注) ***は1%、**は5%、*は10%水準で有意であることを示す

両立支援

【論点】

- 少子化対策としての両立支援の有効性
 - 男女間のギャップ縮小⇒女性の負担の軽減
 - キャリアの持続性をいかに確保するか
- etc.

高齢者の高度活用①



(出所)「労働力調査」(総務省)

高齢者の高度活用

【論点：70歳までの活躍を見据えて】

- 定年延長はどうか
- 世代間の代替問題
- 異なる世代とのコラボレーション
- 高齢者の能力開発
- etc.

参考文献

- 太田聰一「ライフイベントと若年労働市場」『国勢調査から見た進学・結婚・出生行動』、橋木俊詔編『日本経済の実証分析―失われた10年を乗り越えて』(所収)、東洋経済新報社、pp.217-238。
- 玄田有史・川上淳之(2006)「就業二極化と性行動」、『日本労働研究雑誌』、No.556、pp.80-91。
- 酒井正・樋口美雄(2005)「フリーターのその後―就業・所得・結婚・出産」、『日本労働研究雑誌』、No.535、pp.29-41。

- 酒井正 (2013)「学卒後不安定就業の社会的コストとセーフティ・ネット」、樋口美雄・財務省財務総合政策研究所編『若年者の雇用問題を考える』(所収)、日本経済評論社、pp.133-157。
- 水落正明 (2006)「学卒直後の雇用状態が結婚タイミングに与える影響」、『生活経済学研究』、Vol.22・23、pp.167-176。
- Hashimoto, Y. and Kondo, A. (2012) “Long-term effects of labor market conditions on family formation for Japanese youth,” *Journal of the Japanese and International Economies* 26 (1), pp.1-21.